

朗読CDを聴きながら、『金光新聞』
『あいよかけよ』等を読んでみませんか？

最近読むことに困難を感じることはありませんか？
そんな時におすすめしたいのが「朗読CD」です。
耳で聴きながら字を読むと、とっても楽に読めますよ！
教話のCDコーナーの近くに、朗読CDコーナーがあります。
一度手に取ってみてください。



「文字が読みにくい方」への本をパソコンで作ろう
テキストデイジー製作ボランティアさん求む！

【ボランティアの内容】

テキストデイジー図書製作
(文字のスキニングと読み取り修正、
テキスト校正、デイジー編集等)

☆随時、講習会を開催しております。お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ・申込先

青い鳥音訳グループ事務局 (担当 野谷幸子)

719-0111

岡山県浅口市金光町大谷 320 金光図書館内

TEL 0865-42-2054 FAX 0865-42-3134

メール konko-library@konkokyo.or.jp



「テキストデイジー」とは、パソコンを使って読む「文字のデジタル図書」です。一般的には、「電子書籍」といわれていますが、「テキストデイジー」として編集・製作をすることで「より使いやすい図書の形」で、利用者の方にサービスを提供できるようになりました。

2010年1月1日からの著作権法改正により、録音図書の利用対象が、視覚障害者だけではなく「活字の本を読むことが困難な方(学習障害者、知的障害者等)」に幅広く利用されつつあります。



金光図書館通信ミニ
NO.7 2016. 12

金光図書館は
あなたのサポーターです。



あなたの見たい・聴きたい・調べたい
・読みたいをお手伝いいたします。

布教部長 浅野 弓先生
学院書記 細川 展信先生
図書館 金光 英子館長
本との出会いを紹介していただきました。

KONKO Library

〒719-0111 岡山県浅口市金光町大谷 320

☎0865-42-2054 fax0865-42-3134

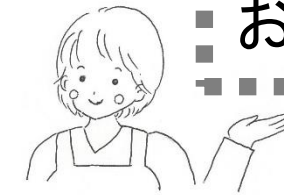
✉ konko-library@konkokyo.or.jp

🏠 <http://www.konkokyo.or.jp/konko-library>

📝 ブログ <http://ameblo.jp/konko-kyouco/>



本教図書担当者より
社会問題を考える参考に！
おすすめ一般コーナー





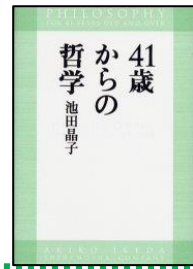
本との出会い

☆今回は、浅野弓先生・細川展信先生・金光英子館長が本との出会いをご紹介します。☆



布教部長
浅野 弓先生
(今池教会)

『14歳からの哲学 考えるための教科書』
池田晶子・著 トランスビュー



『41歳からの哲学』
池田晶子・著 新潮社

若いときに読む本は、時にその人に大きな影響を与えることがあると思うので、若い人には大いに本を読むことを勧めている。

ある日も、参拝してきた若い女の子と読書の話になった。

「どんな本を読んでいるの？」本が好きだと、彼女が言ったので、私は尋ねた。「哲学の…」えっ？ 哲学書を読んでいるの、と私は驚いた。「といっても、難しいものではなく、わかりやすい、素敵な本です」と言うので、私は彼女から、その本を借りて読むことにした。それが池田晶子さんの本と私との出会いだった。

彼女は、自らを哲学者ではなく、文筆家と呼び、自分とは何か、死とは何か、考えるとはどういうことか…、を書き続けた。

時々、町の本屋さんでは「哲学」という部類に並んでいることもあるけれど、哲学的な事を優しく、易しい言葉で表現してくれる。それが池田晶子さんの本である。

それ以来、私は池田晶子さんの本にすっかり魅了されてしまった。「14歳からの哲学」「41歳からの哲学」「暮らしの中の哲学」、ソクラテスに現代の問題を語るユーモアたっぷりの「帰ってきたソクラテス」等々、どれもが私を惹きつけてやまない。

しかし、死とは何か、死んだ私はどこにいるか、死んだのは誰か、と問い続けた池田晶子さんは、46歳という若さで、美しいまま、あっと言う間に人生を駆け抜けてしまった。

それがまた、池田晶子さんらしい、と思うのである。



『暮らしの中の哲学』
池田晶子・著 毎日新聞出版



『帰ってきたソクラテス』
池田晶子・著 新潮社

『図書館は「神様に会える場所」』

図書館は「本を読む場所」。確かにそのとおりです。しかし私は、ある本との出会いから、少し考え方が変わりました。図書館は「神様に会える場所」。そう思わずにはいられないのです。

去年の夏。私は、生きることがほとんど嫌になっていました。

人間関係もうまくいかない、勉強しても頭に入らない、将来のこともままならない。信心ってなんだろう。これから私はどうしたらいいんだろうと行き詰まっていた。

「金光様にお取次をいただいたら？」

友人の勧めにも「いやいや恐れ多いよ」と理由をつけて、逃げる始末でした。本部広前を通り過ぎ、私はふらふらと、足の向くまま、気の向くまま、図書館に向かっていました。カウンターからは、職員の方々の元気な「こんにちは！」のご挨拶。

その温かい雰囲気誘われ、フロアの奥へ奥へと歩みをすすめました。すると、美しくシンプルなデザインの本が目に入り、自然と手が伸びていました。心を奪ったのはある1冊の本でした。おもむろにページをめくると、生き活きと表現されており、その本に吸い込まれるように、その世界の中に入り込んでいました。私にとって、この本との出会いは、神様との出会いになったのです。

「よし！金光様のお取次をいただかせてもらおう」

気がつけば、私の足は、本部広前のお結界に向かっていました。自分の弱い部分も、恥ずかしい部分も、金光様に正直にお話させていただこう。

私「金光様、信心というものがわかりません。これからの人生もどうさせていいのかわかりません。」

金光様「はじめからできる人なんて誰もいません。十年先を楽しみに信心させていただきましょう。大丈夫。」と慈愛に満ちた笑顔でお話してくださいました。金光様の温かいみ諭しに触れ、私の人生は変わっていきました。

今、こうしてこの御霊地にご縁をいただいて住まわせていただいているのも、曲がりなりとも信心させていただいているのも、この本との出会いがあつてのことなのでした。本には人生を変えるような奇跡的な出会いがあります。

神様の思し召しとしか言いようのない出会いが、図書館であなたを待っている。

図書館は「神様に会える場所」。そう信じずにはいられないのです。

『マララ・ユスフザイ国連演説&インタビュー集』

マララ・ユスフザイ・述 朝日新聞

最年少で、2014年のノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさん。

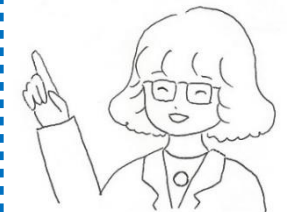
マララさんは、2013年7月12日国連でスピーチをしました。

スピーチで、「無学・貧困・テロと闘いましょう。本を手にとり、ペンをにぎりましょう。それが最も強力な武器です。」と述べられています。そして

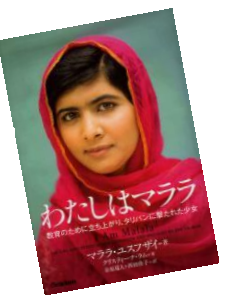
「1冊の本、1本のペンそれで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策エデュケーション ファースト サンキュー」でしめくられています。

世界は、平和にはほど遠いとため息が出そうです。しかし、マララさんは、希望です。マララさんに関する本は、絵本から伝記までそろっています。

マララさんに元気をもらえます。ぜひ読んでみてください。



図書館
金光 英子館長
(本部)



『わたしはマララ』
マララ・ユスフザイ・著
学研プラス



『マララの物語』
レベッカ・L・ジョージ・作
西村書店東京出版編集部



学院書記
細川 展信先生
(平戸教会)